

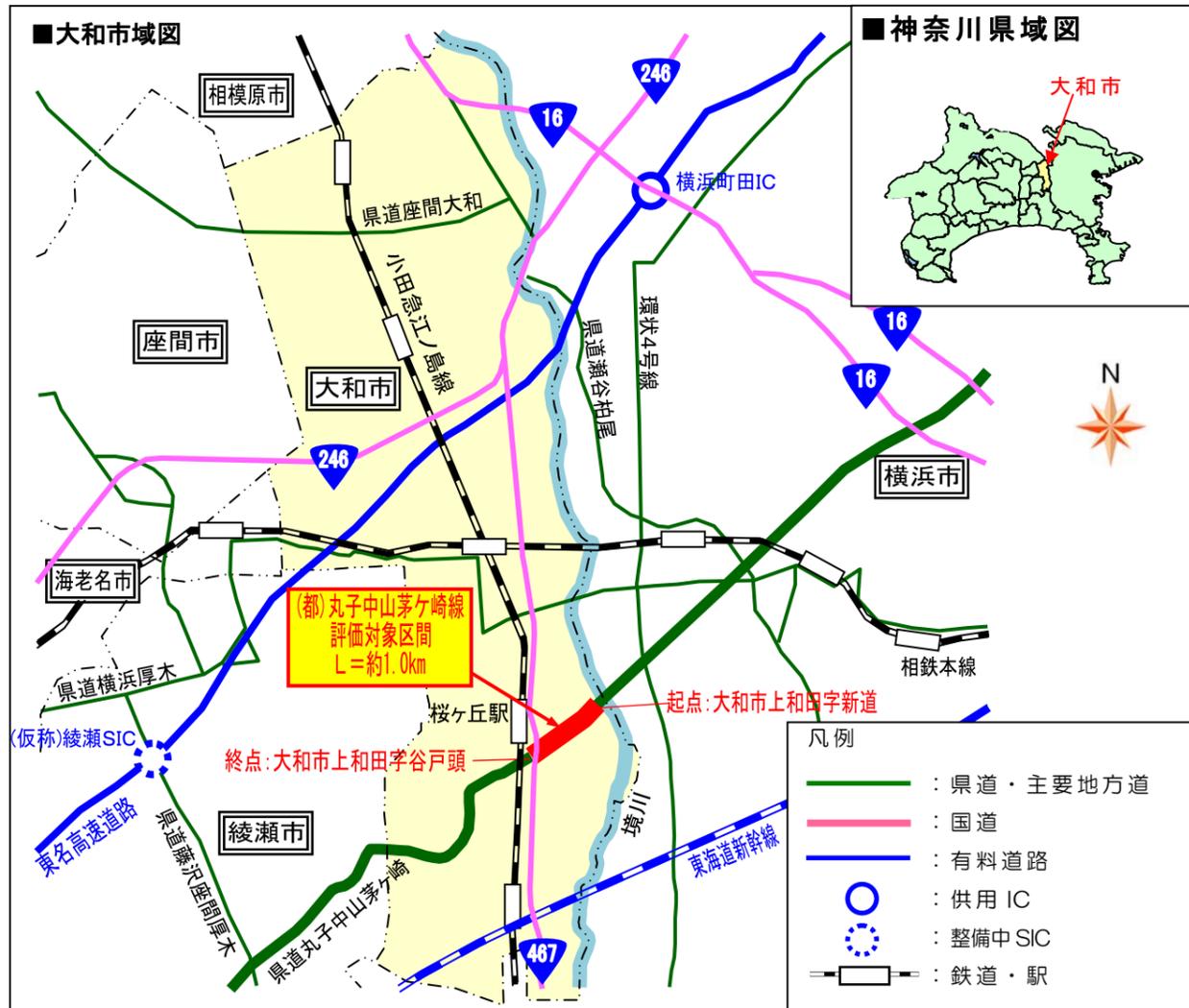
No. 3 都市計画道路 丸子中山茅ヶ崎線 街路整備事業

◆ 事業概要

1. 概要

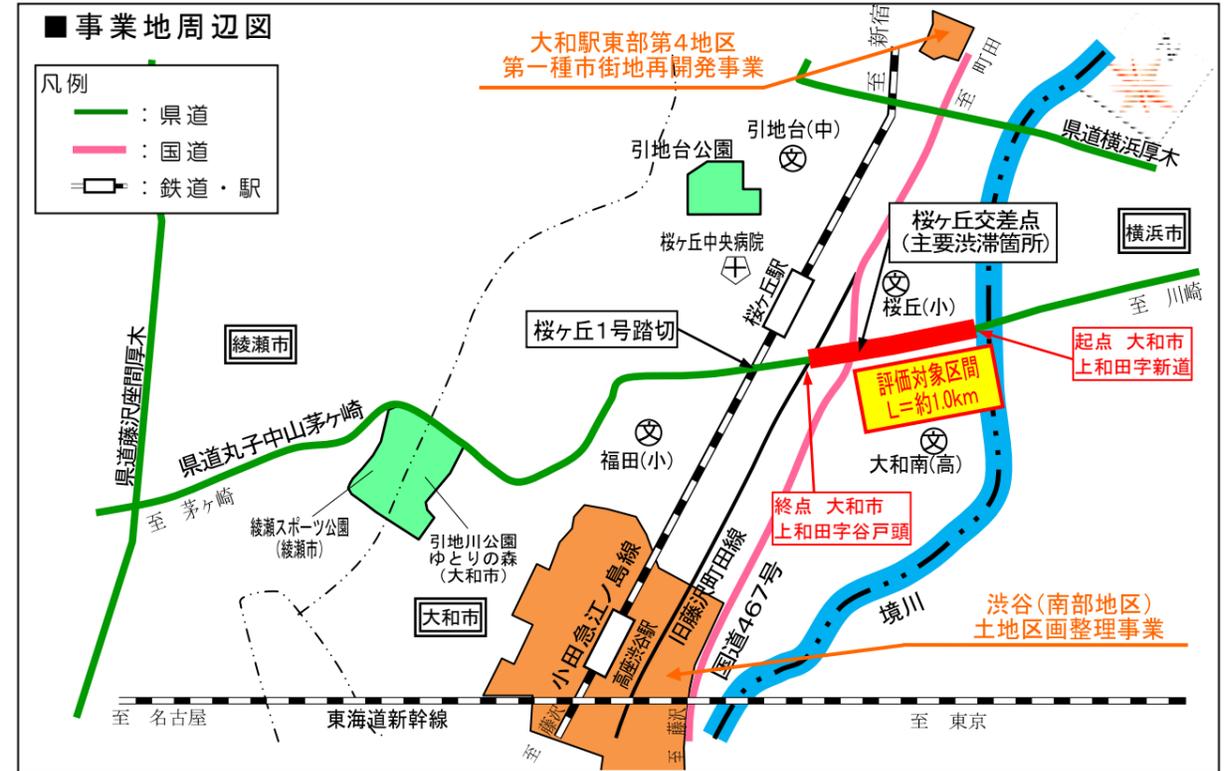
1) 全体の概要

- ア) 本路線を含む県道45号(丸子中山茅ヶ崎)は、川崎市を起点とし、茅ヶ崎市に至る延長約42.3kmの幹線道路である。
- イ) 横浜・川崎方面と湘南地域を結び、多様な交流・連携を支える主要な幹線道路である。
- ウ) 本路線は、「第1次緊急輸送道路」および「緊急交通路指定想定路線」に指定されている。



2) 評価対象事業の概要

- ア) 評価対象区間は、横浜市境から国道467号との交差点付近までの約1.0kmである。
- イ) 評価対象区間に繋がる横浜市域内は、既に4車線で整備されているが、大和市域内は、現道幅員9mの2車線であるため、4車線化の整備を推進している。



3) 評価対象事業の位置づけ

- ア) 県の計画：
  - a) かながわグランドデザイン実施計画
    - ・「広域的な交流・連携の強化を図る道路網の整備」としての位置づけ
  - b) かながわ交通計画(かながわ都市マスタープラン部門別計画)
    - ・整備を推進し、充実・強化を図る「多車線機能を有する一般幹線道路網」としての位置づけ
  - c) かながわのみちづくり計画
    - ・「交流幹線道路網の整備」として位置付け
- イ) 市の計画：
  - a) 大和市都市計画マスタープラン
    - ・東西方向の骨格となる幹線道路として位置付け



No. 3 都市計画道路 丸子中山茅ヶ崎線 街路整備事業

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

- ・平成13年度 都市計画決定
- ・平成14年度 事業認可取得
- ・平成15年度 用地買収開始
- ・平成22年度 工事着手

2) 必要性

- ア) 横浜・川崎方面と湘南地域を結ぶ幹線道路として整備する必要がある。
- イ) 現況交通量が約2.8万台/日と多く、慢性的に渋滞しているため、4車線に整備する必要がある。
- ウ) 慢性的に渋滞している国道467号と交差する桜ヶ丘交差点を改良し、右折レーン等を設けることにより、交通渋滞の緩和を図る必要がある。
- エ) 現況の歩道幅員が約1.0mと狭小であることから、通学児童をはじめとする、歩行者等の安全確保のため、4.0mに拡幅する必要がある。

3. 事業の目的

- 1) 4車線整備による広域的な道路ネットワークの機能強化
- 2) 桜ヶ丘交差点への右折レーン設置による交通渋滞の緩和
- 3) 歩道の拡幅整備による歩行者等の安全確保

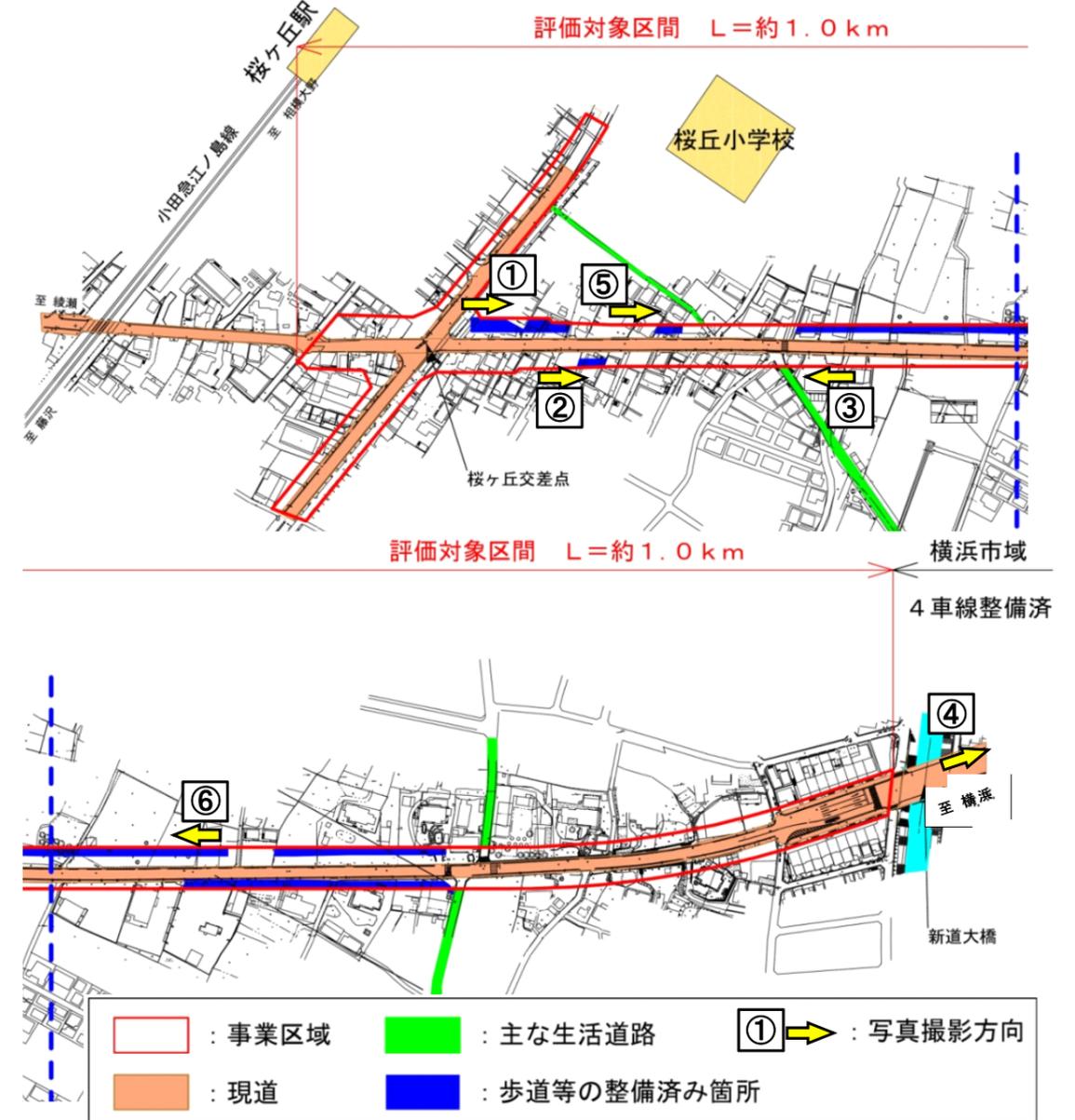
4. 事業の内容

- 1) 起 終 点 大和市上和田字新道しんみち～大和市上和田字谷戸頭やとがしら
- 2) 事業延長 約1.0km
- 3) 幅 員 27.0m
- 4) 交 通 量 計画交通量 35,300台/日(平成42年推計)  
現況交通量 27,700台/日(平成22年度道路交通センサス)
- 5) 道路規格 第4種第1級
- 6) 設計速度 50km/h
- 7) 車 線 数 4車線
- 8) 歩道形態 両側歩道
- 9) 主な工種 道路改良工

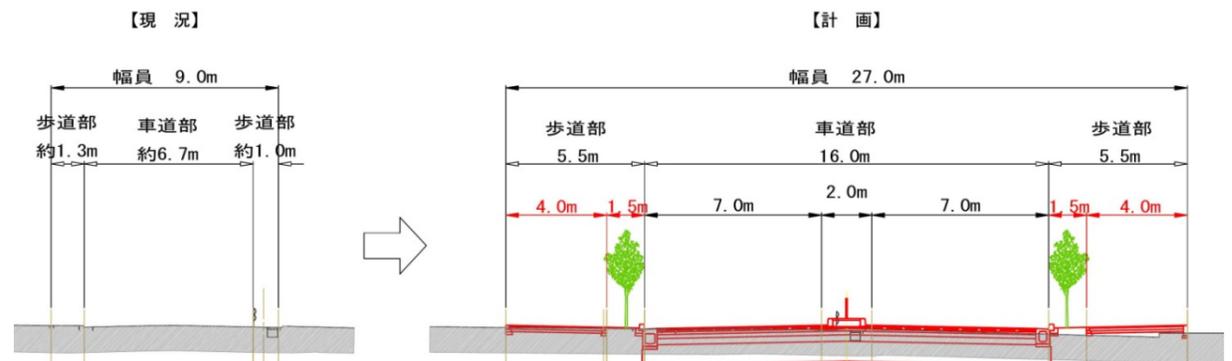
5. 事業実施にあたって配慮した項目

- 1) 評価対象区間の周辺には小田急江ノ島線の桜ヶ丘駅や小学校等が立地し、歩行者等が多いことから、用地取得済みの箇所については、仮舗装を行うとともに、仮設ガードレールの設置をすることで、早期に歩行スペースを確保するなど、歩行者等の安全対策を進めている。

■ 整備状況



■ 断面図



◆ チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

① 事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

- ・ 評価対象区間の周辺には、広域避難場所の大和南高校や引地台公園、引地川公園ゆとりの森がある。
- ・ 評価対象区間と交差する国道467号沿道では、市街地再開発事業や土地区画整理事業によるまちづくりが進められている。

イ) 地元の意識

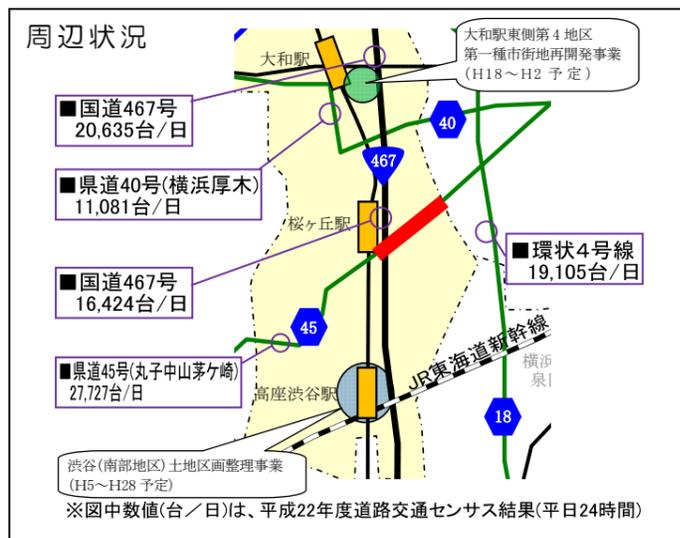
- ・ 市や市議会議員、自治会、商工会等で構成する「県道丸子中山茅ヶ崎線道路整備促進協議会」は、毎年、県に対して「事業認可区間の一日も早い完成」を要望するとともに、リーフレット配布による整備促進に向けた啓発活動を行っている。
- ・ 県商工会議所連合会から、拡幅工事の推進に関する強い要望がある。

ウ) 事業地の状況

- ・ 本路線は、交通量が多く、大型車混入率も高いため、慢性的な渋滞が発生していることから、周辺の歩道の無い生活道路に通過車両が流入している。(大型車混入率22.0%平成22年度道路交通センサス)
- ・ 国道467号と交差する桜ヶ丘交差点では、流入する4方向全てに右折レーンが設置されておらず、右折待ち車両が直進車両の走行を阻害している。
- ・ 歩道幅員が約1.0mと狭小であるため、歩行者等の安全な通行に支障をきたしており、小田急江ノ島線桜ヶ丘駅を利用する通勤・通学者や、桜ヶ丘小学校の児童は、本路線を避け、生活道路を利用している。

エ) 周辺の環境

- ・ 周辺には小学校や中学校、高校が立地している。
- ・ 路線西側には、小田急江ノ島線の桜ヶ丘駅があり、駅周辺にはスーパーや飲食店などの商店が立地している。
- ・ 国道467号の沿道には、ホームセンターや大型スーパーなど、駐車場を備えた商業施設と、工場が建ち並んでいる。



② 事業の投資効果等

■ 費用対効果  $B/C = 256 / 93 = 2.8$

総費用	： 93億円	・ 事業費	： 90億円
		・ 維持管理費	： 3億円
総便益	： 256億円	・ 走行時間短縮便益	： 238億円
		・ 走行経費減少便益	： 16億円
		・ 交通事故減少便益	： 2億円

■ 上記便益に算定されていない効果

ア) 防災

- ・ 「第一次緊急輸送道路」および「緊急交通路指定想定路線」に指定されており、地震等の大規模災害時に救助活動人員や物資等の緊急輸送路を確保し、防災機能の強化を図ることができる。
- ・ 広幅員の道路整備により、地震等による火災発生時の延焼を防止する防災空間を確保することができる。

イ) 安全・安心・利便性

- ・ 自転車歩行者道(幅4.0m×両側)が整備され、歩行者や自転車の安全を確保することができる。
- ・ 桜ヶ丘交差点の改良整備により、交通渋滞の緩和が図られるとともに、周辺の生活道路への流入車両が減少し、良好な住環境が確保される。

① 慢性的な渋滞状況



② 計画区間の狭小な歩道



③ 通勤・通学状況(生活道路の利用)



No. 3 都市計画道路 丸子中山茅ヶ崎線 街路整備事業

③関係する地方公共団体等の意見

■大和市

・丸子中山茅ヶ崎線の事業推進を要望

■県道丸子中山茅ヶ崎線道路整備促進協議会

(市、市議会、自治会、農業委員会、商工会議所、商店会により構成)

・当該路線の交通渋滞の解消や沿道環境の改善にむけて「事業認可区間の一日も早い完成」を要望

(2) 事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 事業化年度 平成14年度
- 用地着手年度 平成15年度
- 工事着手年度 平成22年度
- 進捗率 47% (用地取得率：63%)
- 供用率 0%
- 残事業の内容等 用地取得、道路改良工など

②これまでの課題に対する取り組み状況

・用地取得は約63%が完了し、順次、歩道や側溝などの整備を行うとともに、当面の歩行者等の安全対策として、取得箇所を仮舗装するなど、暫定的な歩道整備を実施している。

③今後のスケジュール

引き続き、未取得用地の早期取得に努め、平成32年度までに道路改良工事を行い、同年度内の完成供用を目指す。

年度	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)
用地買収					
工事					

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

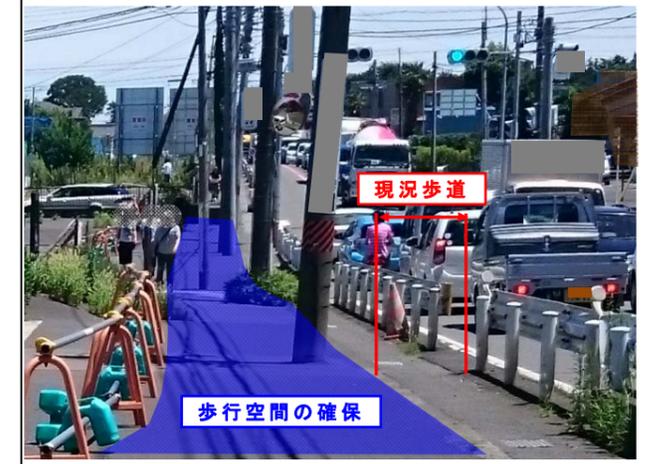
■代替案立案等の検討

・本路線は、横浜・川崎と湘南地域を結ぶ幹線道路で、評価対象区間が繋がる横浜市域内は、既に4車線で整備されており、また、本区間において慢性的な渋滞の緩和や歩行者等の安全確保等が必要であるため、引き続き、現計画による整備が最善である。

④横浜市側 4車線整備済状況



⑤歩行空間確保



⑥歩道整備 完了状況



◆ 対応方針 (案)

継続	<p>本事業は、横浜・川崎市域と湘南地域を結ぶ重要な幹線道路であり、国道467号との交差点周辺の渋滞緩和、歩行者等の安全確保、沿道環境の改善など、事業の必要性に変化はなく、重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要があると判断する。</p>
----	--